



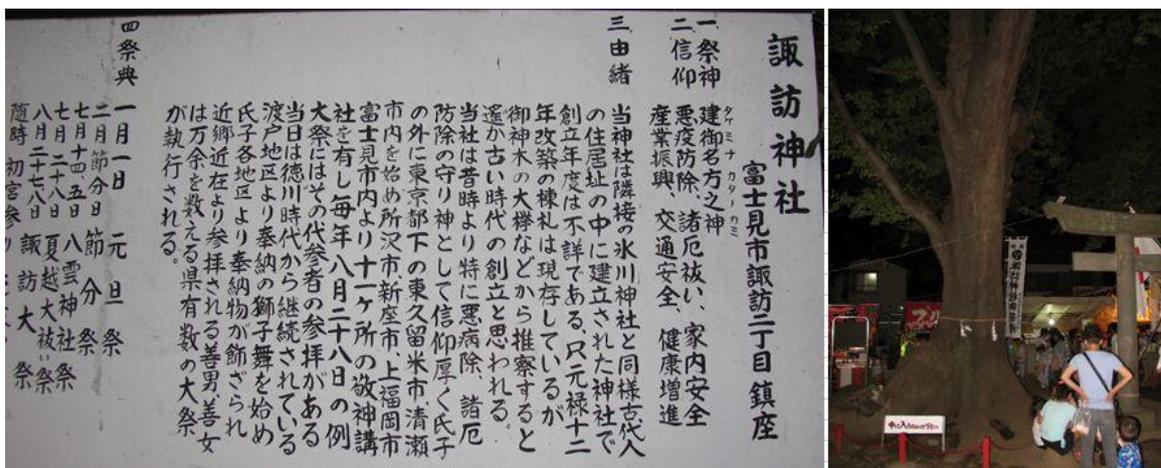
2013/8/29 報告：H・S

8月28日（水）会社勤めの帰途、カメラを携えて「おすわさま」祭りに午後7時頃参る。はじめて観る例大祭で、正直、想像以上の賑わいでビックリ。また【若者の人数】が【年寄の人数】よりはるかに多く、なぜか嬉しくなってしまう。

郷土富士見検定問題集に載っている「諏訪神社」に係るスナップと地域祭礼に参加している富士見市民大学の「竹の献灯」のスナップをお届けします。

■郷土富士見検定問題集から

- ①諏訪神社境内に市指定天然記念物になっている木は？・・・樺
 （樹齢約500年）（幹周約6.3m樹径約2m）（樹高約20m）



< 樺 >

- ②諏訪神社の例大祭で奉納される獅子舞に伝わる話はなにか？・・・悪疫退散の舞いを奉納したら疫病が治った
 ③太田道灌が川越・鶴馬を検知した頃、家来が獅子舞を伝え、現在でも諏訪神社の祭礼で舞を奉納している組は？・・・渡戸組
 ④諏訪神社の例大祭で獅子舞が奉納される日は何月何日か？・・・8月28日

②～④の解説文によると・・・

旧鶴馬の諏訪神社の建立は元禄5年（1692）といわれ、建御名方之命（たけみなかたのみこと）を祭神としています。総本山は長野県の諏訪大社です。通称「おすわさま」と親しまれ、悪病よけの神、また農業神として信者が多く8月28日の例大祭にはナス・キュウリ・枝豆などが供えられます。

例大祭で奉納される渡戸の獅子舞は伝えるところによると、太田道灌が江戸城築城、その外城の地として川越と鶴馬を検知した頃、疫病が流行し多くの病人が出ました。道灌の家来が京より**3頭の獅子面**と**山の神面**を購入し、和田戸（現在渡戸）の名主宅に村民を集め、舞を伝えた後、諏訪大明神の社頭で悪疫退散の舞を奉納したところ病は治ったといえます。以後、渡戸組においては獅子舞の維持発展に尽力し、現在に至ります。



<渡戸の獅子舞>

⑤諏訪神社では8月28日が例祭にあたり、市民俗文化財の勝瀬囃子が奉納されるが、もうひとつは？・・・獅子舞



<勝瀬囃子>

※勝瀬囃子は4月10日の「はんなさま」（榛名神社）でも演じられている

獅子舞に頭を噛まれると無病息災で過ごせると言われる厄落とし。親は無病息災を願い獅子の前へ、お子さんは怖くて泣きじゃくる。微笑ましい光景百態に時間を忘れる。

■富士見市民大学講座「木と私たち」は、今年度は諸事情により休講中ですが恒例となっている地域の祭礼には、有志により今年も参加。今年は「富士山」の世界文化遺産の登録をヒントに、富士山の「竹の献灯」です。(場所：雲居の滝)

